

富士河口湖町立 教育センターだより

No.21



平成30年2月23日 文責 遠山 榮子



第5回研究会

2月20日(火)に、本年度最後の研究会(富士山学習研究会)が行われ、大きく次の2つの内容で話し合いが進められました。

- * 1 研修 富士山科学研究所教育プログラムの紹介
講師 富士山科学研究所 佐藤 望先生・馬場 章先生
- * 2 今年度の反省【・富士山学習研究会・教育センター事業】
- * 1 について、富士山科学研究所の富士山を世界共有の財産とし

て「守り」「活かす」研究成果を、教育プログラムとして、児童生徒の富士山学習の支援に広く深く関わっていきたいというものでした。本年度、年間指導計画に基づき、この中のプログラムを実践した町の小中学校の紹介もありました。本町の富士山教育・火山防災教育に大きな刺激となりました。

* 2 の富士山学習については、数年前から本格的に取り組んできた「新倉堀抜」を、4年社会科の学習として、指導案・ワークシート・評価にまでまとめあげられたことは、大きな成果であり、各学校で活用していくことが話し合われました。



教育センター事業については、設置条例にしたがって、8項目の事業を展開してきましたが、本年度は、特に英語科に向けての対応が特筆されます。今後は、学校の多忙化改善に向け、教育センターの業務の精選と再構築も課題となってくるという報告がなされました。

●富士山学習の継続研究

- ・各校で、新倉堀抜の授業実践
- ・管外視察研修(静岡県側の構成資産等の学習)
- ・臨地研修
- ・富士山科学研究所等との連携(小・中理科等)

●アンケート調査のスリム化

来年度に向けての課題



研究員の先生方のご協力のもと、無事、5回の研究会を終えることができました。1年間ありがとうございました。なお、出されたたくさんの貴重なご意見につきましては、新年度の研究会で検討し、実施していきたいと思っております。

「平成30年度 富士河口湖町 富士山学習全体計画 年間指導計画」配布

各学校の力を結集して、平成30年度の富士山学習全体計画・年間指導計画が冊子となり、配布の運びとなりました。富士山学習は、平成24年度の新規事業として立ち上げられ、平成25年2月には、小立小においてモデル授業の実施。同年6月には富士山が世界遺産となりました。平成25年度から、各校で地域の実情や児童の発達段階に合わせ、関連機関と連携しつつ富士山学習が実施されてきました。体系的な学びにより、郷土に誇りをもち、富士山を愛する子どもの育成を富士山学習の目標に掲げ、その歩みは着実に進められています。更なる富士山学習の充実・発展に寄与するものと思っております。